

令和2年6月5日

第3学年保護者の皆様

仙台市立長町中学校

校長 今野 隆

学校が再開して

初夏の候、第3学年の保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。約3ヶ月の休校期間、保護者の皆様にご支援・ご協力いただきました事に深く感謝申し上げます。

さて、学校再開から1週間が経過しようとしています。5月の分散登校では、生徒達の表情が硬く、不安な様子や緊張している様子が見られました。きっと生徒自身にしか分からない気持ち、そして自分自身でも言語化できないような不安もあったのではないかと思います。

少しずつ、生徒の表情にも明るさが見えてきました。教室でも笑顔が増え、笑い声が聞こえるようになりました。振る舞いもさすがに3年生だなと感じる場面も多く見られるようになってきました。「おはようございます」「さようなら」の声も、いつも通りに戻って、後輩の手本となっています。登校時、検温カードを担当職員に手渡す時も「お願いします」「ありがとうございました」と、多くの生徒が一言添える姿も素晴らしいと感じます。

昨日、お昼前に、出先から戻ってきて、職員玄関に入ろうとしていた時、偶然、3年生のあるクラスの女子生徒達の活動場面に出くわしました。みんなとても明るく「こんにちは」と声を掛けてくれました。とてもうれしく思います。

日常が戻ってきているかなと実感します。しかし、彼らの心の中は、誰にも分かりません。私達にも、保護者の皆様にも打ち明けられない事、そして今は実感できていない気持ちがあるのではないかと思います。言語化できずに苦しんでいたり、気持ちをほき出せなくて辛い思いをしたりしているのかもしれませんが。大会やコンクール、学校行事の中止等、計り知れない喪失感がある生徒も多くいると思います。学習の不安も大きいと感じます。

3年生の生徒達は、それぞれの目標を持って、新しい年度を迎えたと思います。中総体で一区切りさせようとしていた生徒、学校行事やコンクール、中総体等の舞台上で活躍したいと思っていた生徒、ひょっとしたら、大きく脚光を浴びたかもしれない生徒がいたのかもしれませんが。その思いを想像しても、計り知れないものがあります。

それでも彼らは、この1週間、登校し、頑張ろうとしていましたし、実際、頑張っていました。笑顔もありました。あいさつもすっかりできています。教室でも頑張ろうとする姿勢がよく分かりました。明るく振る舞っていました。しかし、心は荒れて、傷ついている生徒もいるはずです。

もし、私が中学生だったとしたら、このように笑顔で登校できただろうか、先生方に笑顔で接することができただろうか、想像してみましたが、私には無理だったのかもしれませんが。彼らが下校していく時に思うことがあります。「この子達は、本当はだれよりも、過去のどの学年の生徒達よりも強い気持ちを持っているのかもしれない。」

3学年の教職員スタッフは、ずっと生徒達が戻ってくるのを待っていました。再開、そして再会できて教職員もとても明るい表情です。しかし、心配もしています。この先、生徒達は明るさだけでは歩いていくことはできないでしょう。壁にぶつかったり、悩んだりすると思います。そして、時間の経過とともに、この時期に失った喪失感や心の痛みを話し始める時がくるかもしれません。彼らは、今までどの世代も経験した事がない1年を歩いていこうとしています。「あの時は・・・だった。」と自らの言葉で語れる日がくるように、支えていきたいと考えております。